

復興への道のり

～東日本大震災からの復興の状況と最近の取組～



2011年3月11日、
東日本大震災発生。
そして、復興への取組が始まった。

甚大な被害をもたらした東日本大震災。
被災された方々に寄り添いながら、一日も早い復興をめざして。
私たちは長い道のりを歩み始めました。

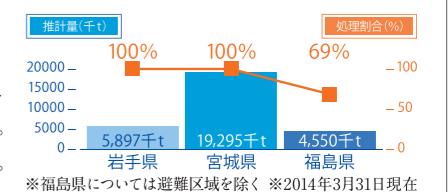


一面に広がる震災がれき。
これを片付けないことには
何も作ることができない。

津波により壊され、町を埋め尽くした無数の建物。まずはこれらを撤去し、
ライフラインや交通網を回復することが、復興に向けての第一歩でした。

災害廃棄物等処理の状況

2014年3月末までに、岩手県・宮城県を含む12道県231市町村において、災害廃棄物及び津波堆積物の処理が完了しました。
福島県の一部地域においては、継続して処理を実施しています。



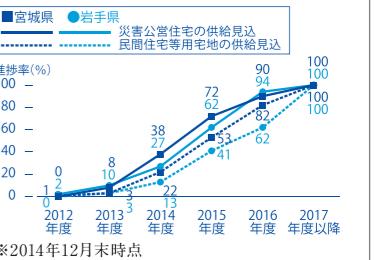


住み慣れた家を失った人々。 少しでも早く、落ち着ける住まいを。

暮らしを再建するには何よりも、落ち着いて住み続けられる住まいが必要です。
宅地や住宅の整備を急ピッチで進めています。

公営住宅、民間住宅等用宅地の供給見込

2015年度末までに岩手・宮城・福島の各県で約29,000戸分の住宅・
土地の整備が完了する予定です。被災者の方々が住まいの再建に
向けて見通しを立てられるように、地区単位で詳細な工程表を公表
しています。



◀左ページ写真:(上)避難所、(下)仮設住宅



住みたいまちであるために。
みんなのアイデアを形にする。

安心して暮らせるまちづくりや公共インフラ復旧の事業計画は、
地域の方々と一丸となって進められています。

復興まちづくり（防災集団移転）の進捗状況

おおむね計画通りに進捗し、高台への移転は約9割の地区で着工済みの段階に入っています。今後も、事業進展に伴う新たな課題に対し、迅速に対応していきます。





復興に向けた長い道のりを 健康に過ごせるように支えたい。

被災者の方々がすこやかに過ごせるように、ボランティアやNPOの方々に
ご協力いただきながら、心身のケアや生活支援に力を入れています。

避難者数の推移状況

避難している方は、震災直後の約47万人から約23万人まで
減っています。恒久住宅への移転が進み、仮設住宅等への
入居戸数は減少しています。



岩手県	宮城県	福島県
192人	233人	185人

※2013年度実績

生活支援相談員の配置状況

被災者の見守りなどを行うため、被災3県に生活支援相談員等
を配置しています。



暮らしのために必要な、なりわい。
再建のために力強い支援を。

東北に活気を取り戻すには、水産業や農業、観光業等の回復が欠かせません。
産業の本格復旧に向けて、多彩な支援制度で後押しをしています。

売上水準の変化状況

アンケートによると、約4割の企業が震災直前の売上水準以上まで回復しています。今後は商業集積や商店街の再生、新産業創造の取組等を推進していきます。

	震災直前より減少	震災直前以上に増加
2012年2月	70.1%	30.0%
2012年9月	67.6%	32.4%
2013年6月	63.3%	36.7%
2014年6月	59.7%	40.3%

※グループ補助金交付先企業へのアンケート結果



笑顔あふれる福島へ。 さまざまな取組と支援を 一步ずつ着実に。

豊かな自然に恵まれ、おいしい農林水産物にあふれる福島県。
米の全量全袋検査や海水モニタリングなど、
食の安全を確保する数々の取組が進められています。

福島県の農業産出額の推移

福島県の農業産出額は、震災前の水準までは回復していませんが、
回復傾向にあります。





写真提供:福島洋上風力コンソーシアム



「新しい東北」の創造に向かって、 新たな挑戦が始まっている。

東北をただ震災前の状態に戻すのではなく、復興を契機にさまざまな課題を解決し、日本や世界のモデルにするための取組がいま、進められています。



「新しい東北」の事業事例

- A／世界最先端の技術開発・実証研究が進む浮体式洋上風力発電設備(福島県沖)
- B／売電益で再生可能エネルギー普及を推進する福島空港メガソーラー(福島県)
- C／クリーンルームを活用した、人工光と水耕栽培によるレタス工場(福島県)

左ページ写真

A | B
C



元気な東北をめざして、
私たちは未来へと歩み続ける。



<http://www.reconstruction.go.jp/>

